

「2020年度起業と起業意識に関する調査」

～アンケート結果の概要～

I	調査目的と実施要領	1
II	調査結果（詳細調査）	
1	起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の違い	4
2	起業家の実態	7
3	起業関心層の実態	18
4	起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の満足度	23
III	まとめ	24

<お問い合わせ先>
日本政策金融公庫 総合研究所
小企業研究第一グループ
TEL 03-3270-1687
担当 青木、桑本

I 調査目的と実施要領

1 調査目的

日本政策金融公庫総合研究所では、新規開業の実態を把握するために、1991年から毎年「新規開業実態調査」を実施している。ただ、同調査の調査対象は、開業前後に日本政策金融公庫から融資を受けた企業に限られるという制約がある。そこで、同調査を補完し、「起業前後に融資を受けなかった人」や「まだ起業していない人」などにも焦点を当てるため、インターネットを用いたアンケート調査（「起業と起業意識に関する調査」）を2013年度から実施している。

2019年度調査からは、それまで一類型として分析していた起業家を、事業に充てる時間に応じて「起業家」と「パートタイム起業家」の二つに分けている。副業起業やフリーランスの増加などにみられるように、起業家の働き方は多様化しており、勤務や家事のすき間時間にインターネットなどを通じて小規模に商売をする人も多い。現在の職業を「事業経営者」と回答していない人のなかには、勤務収入以外の収入があり、実態は自ら事業を始め、経営しているにもかかわらず、事業経営者であるとの認識をもたない「意識せざる起業家」も少なからずいるようである。このように多層化する起業家の実態を把握しやすくするために2019年度から起業家を働く時間によりさらに分類することとした。分類に当たっては厚生労働省「労働力調査」における短時間勤務の基準を参考にし、事業に充てる時間が1週間に35時間以上を「起業家」、35時間未満を「パートタイム起業家」としている。なお、「意識せざる起業家」も事業に充てる時間に応じて起業家またはパートタイム起業家に含めて分析している。

2 実施要領

- (1) 調査時点 2021年2月
- (2) 調査対象 全国の18歳から69歳までの男女
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート（事前調査と詳細調査の2段階）
インターネット調査会社から登録モニターに電子メールで依頼し、ウェブサイト上の調査画面に回答者自身が回答を入力。
- ① 事前調査 … 本調査の調査対象に該当するかどうか等を判別するための簡易なアンケート
 - ② 詳細調査 … 調査対象の該当者（「起業家」「パートタイム起業家」「起業関心層」「起業無関心層」）に対して行う詳細なアンケート

(注) 1 2020年度調査では、起業年を「2016～2020年」「2015年以前」に区分し、このうち「2016～2020年」を「起業家」「パートタイム起業家」としている。なお、「起業家」は現在経営している事業に充てている時間が1週間当たり35時間以上である人、「パートタイム起業家」は同35時間未満である人と定義している。

2 2020年度調査では、現在の職業を「事業経営者」と回答した人に加えて、「事業経営者以外」と回答した人のうち、勤務収入や事業収入以外に、過去1年以内に年間20万円以上の収入があると回答した人を事業経営者とし、そのなかからも「起業家」と「パートタイム起業家」を抽出した。

- (4) 回収数
- ① 事前調査 8万2,159人（A群2万4,992人、B群5万7,167人）
 - ② 詳細調査 2,487人

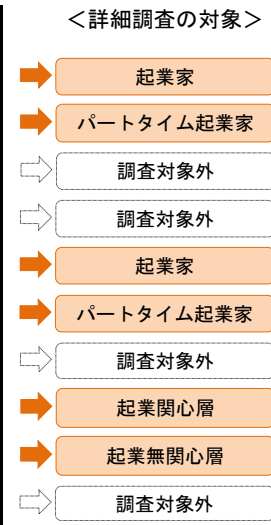
(注) 1 事前調査（A群）の調査対象は、性別、年齢階層（10歳きざみ）、居住する地域（47都道府県）の割合がわが国の人口構成（2020年時点）に準拠するように、回収数を設定した。

2 事前調査（B群）は、「起業家」「パートタイム起業家」のサンプルサイズを確保するために、その出現率が高いと思われる属性をもつ人に対して行ったものである。

(5) 調査対象の選別方法

事前調査 (A群) による類型化

							回収数 (件)	構成比 (%)		
全国の 18歳から 69歳までの 男女	事業 経営者	自 分 が 起 業 か	自分が起業 した事業で ある	起 業 年	2016～2020年	事業に充て る時間	35時間以上/週	142	0.6	
							35時間未満/週	129	0.5	
				2015年以前、2021年			918	3.7		
				自分が起業した事業ではない				577	2.3	
	現 在 の 職 業	勤 務 収 入 の 有 無 (選)	あり 事業経営者	起 業 年	2016～2020年	事業に充て る時間	35時間以上/週	37	0.1	
							35時間未満/週	846	3.4	
					2015年以前、2021年			884	3.5	
					起 業 心 へ の 有 無			起業に関心あり	4,068	16.3
					なし			以前も今も起業に関心なし	13,954	55.8
			以前は起業に関心があった	3,437	13.8					
合 計							24,992	100.0		



<類型別の構成比>

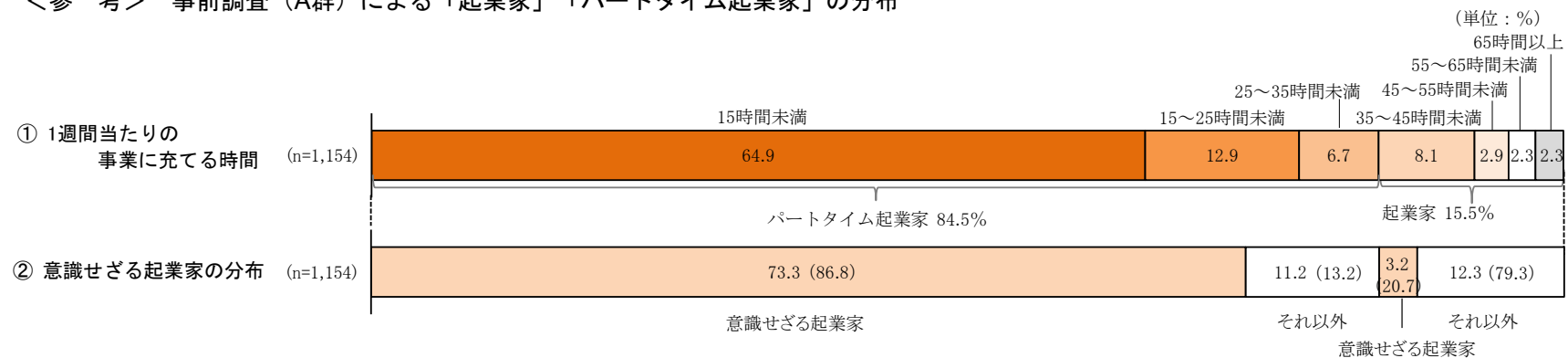
	回収数 (件)	構成比 (%)	構成比 (%)
起業家	179	0.7	0.9
パートタイム起業家	975	3.9	5.1
起業関心層	4,068	16.3	21.2
起業無関心層	13,954	55.8	72.8
その他 (調査対象外)	5,816	23.3	
合 計	24,992	100.0	100.0

意識せざる起業家

資料：日本政策金融公庫総合研究所「2020年度起業と起業意識に関する調査」(以下同じ)

- (注) 1 「勤務収入以外の収入がある」とは、過去1年間に年間20万円以上の収入(年金や仕送りからの収入、不動産賃貸による収入、太陽光発電による収入、金融や不動産などの投資収入、自身が使用していた既製品の販売による収入は除く)があり、今後も継続してその収入を得ていく場合のことをいう。
- 2 以下では「勤務収入以外の収入がある」と回答した人を「事業経営者」として、「勤務収入以外の収入」は「事業収入」として集計する。
- 3 構成比は四捨五入して表示していることから、合計しても100%にならない場合がある(以下同じ)。

<参 考> 事前調査 (A群) による「起業家」「パートタイム起業家」の分布

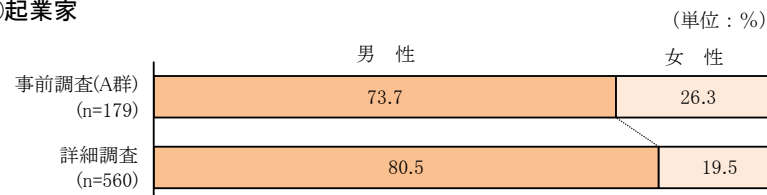


(注) ②の棒グラフにおける () 内の数値は、パートタイム起業家、起業家それぞれを100%とした場合の内訳。

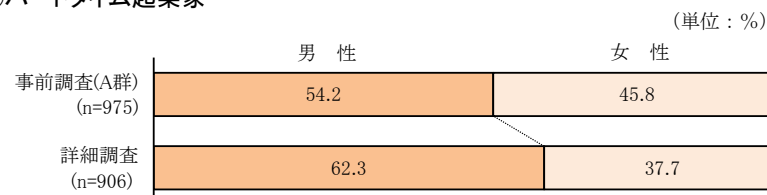
3 回答者の概要

(1) 性別

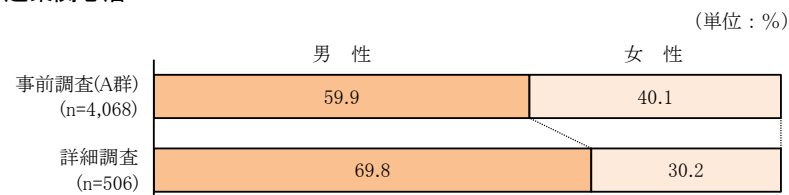
①起業家



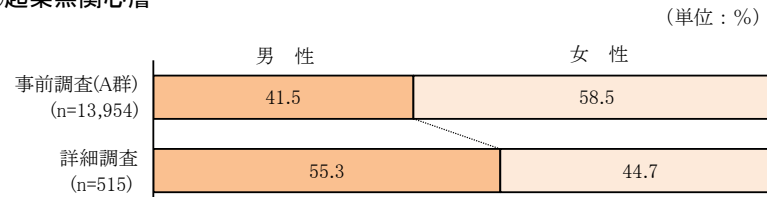
②パートタイム起業家



③起業関心層

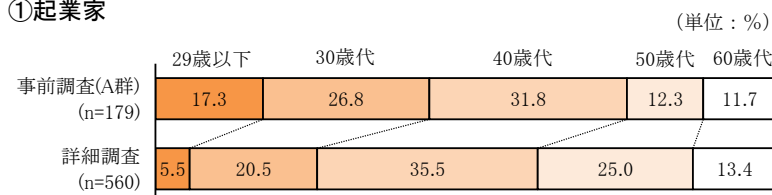


④起業無関心層

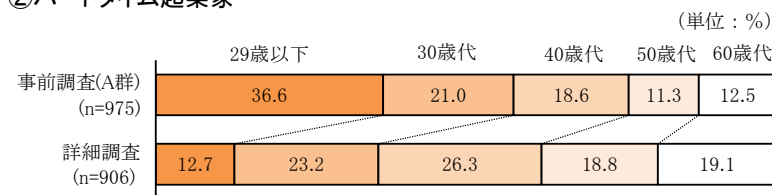


(2) 調査時点の年齢

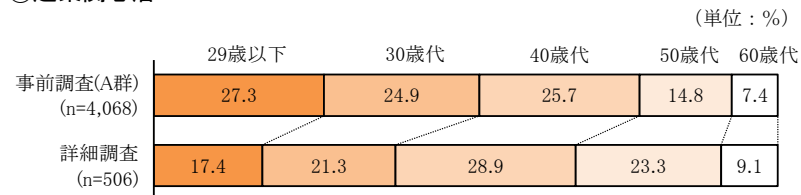
①起業家



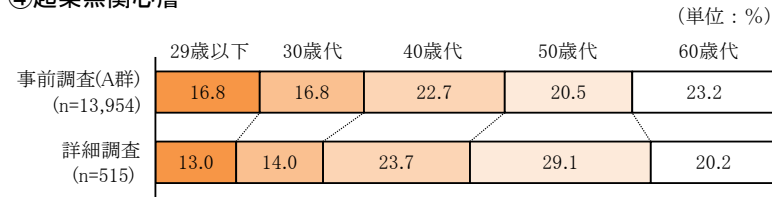
②パートタイム起業家



③起業関心層



④起業無関心層



(注) [再掲]事前調査 (A群) の調査対象は、性別、年齢階層 (10歳きざみ)、居住する地域 (47都道府県) の割合が人口構成に準拠するように、回収数を設定した。

4 ウェートの設定(詳細調査のサンプル)

詳細調査における起業家、パートタイム起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査 (A群) と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計に当たっては、事前調査 (A群) の性別・年齢別構成比に近似させるために、25ページに記載のとおりウェート値を設定した。以下では、ウェート値による重みづけを行った集計を示している。ただし、図表中のn値 (回答数) は原数値を示した。

II 調査結果（詳細調査）

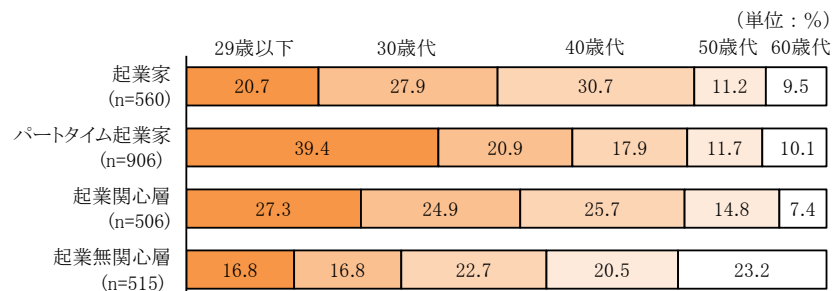
1 起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の違い

(1) 属性

～パートタイム起業家は「29歳以下」や「女性」の割合がかなり高い～

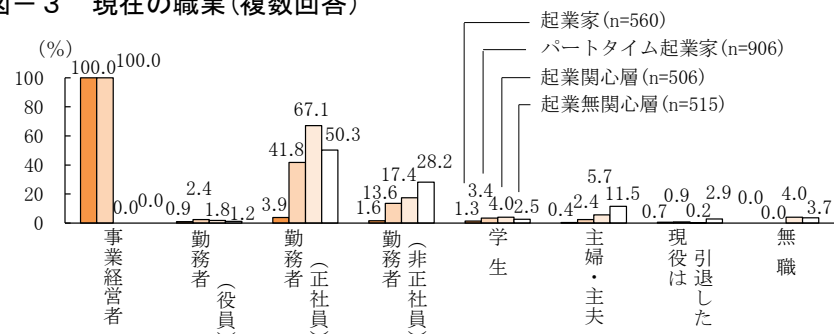
- 年齢（起業家、パートタイム起業家は起業時の年齢）をみると、パートタイム起業家では「29歳以下」の割合が39.4%と、起業家（20.7%）、起業関心層（27.3%）、起業無関心層（16.8%）に比べてかなり高い（図-1）。
- 性別は、「女性」の割合がパートタイム起業家で45.8%と、起業家（26.3%）と比べてかなり高い（図-2）。起業無関心層では、「女性」の割合が58.5%と半数を超える。
- 現在の職業をみると、「勤務者（正社員）」の割合は起業家が3.9%と、パートタイム起業家（41.8%）、起業関心層（67.1%）、起業無関心層（50.3%）に比べてかなり低い（図-3）。
- 主たる家計維持者である割合は、起業家が74.9%で、パートタイム起業家（62.2%）、起業関心層（66.8%）、起業無関心層（46.1%）よりも高い（図-4）。

図-1 年齢



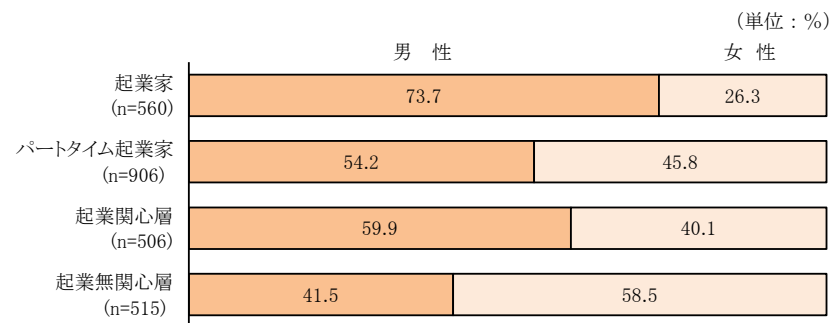
(注) 1 詳細調査による集計データにウェートをかけているため、3ページの結果と異なる。
2 起業家、パートタイム起業家は起業時の年齢である。

図-3 現在の職業（複数回答）



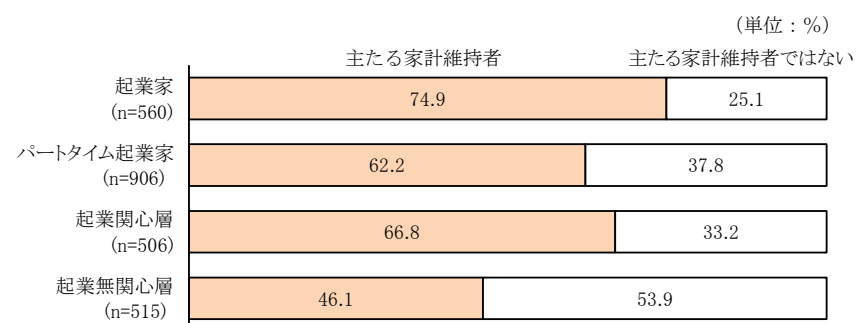
(注) 分類上、事業経営者の割合は、起業家およびパートタイム起業家では100%、起業関心層および起業無関心層では0%となる。

図-2 性別



(注) 図-1 (注) 1に同じ。

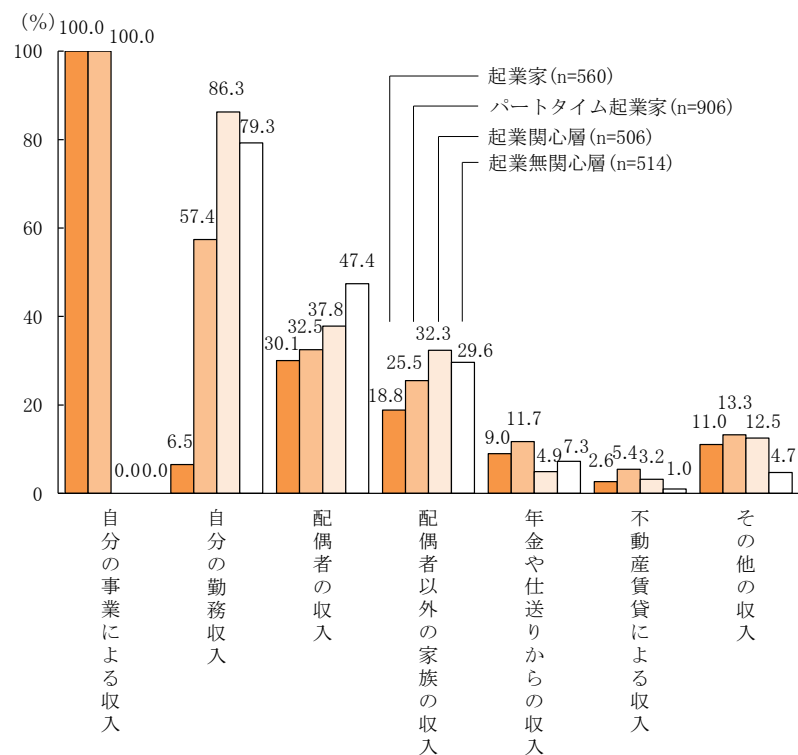
図-4 主たる家計維持者であるか



～起業関心層とパートタイム起業家は育児に携わっている割合が相対的に高い～

- 世帯収入の内訳をみると、「配偶者の収入」は起業家（30.1%）やパートタイム起業家（32.5%）に比べて起業関心層（37.8%）や起業無関心層（47.4%）のほうが高い（図-5）。
- 育児に携わっている人の割合は、起業関心層（31.3%）とパートタイム起業家（28.5%）で、起業家（21.5%）や起業無関心層（24.8%）に比べて高い（図-6）。
- 介護に携わっている人の割合は、パートタイム起業家で15.2%と相対的に高い（図-7）。

図-5 世帯収入の種類（複数回答）



(注) 1 「その他の収入」には、「太陽光発電による収入」「金融や不動産などの投資収入」「勤務収入や事業収入以外の年間20万円未満の収入」が含まれる。
 2 分類上、「自分の事業による収入」は起業家およびパートタイム起業家では100%、起業関心層および起業無関心層では0%となる。

図-6 育児に携わっている時間

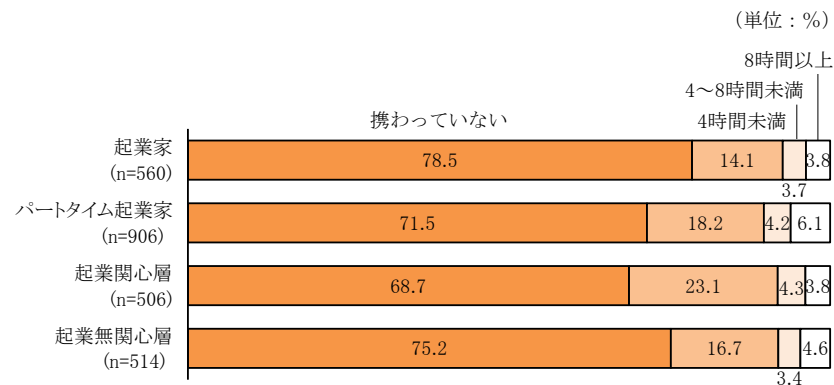
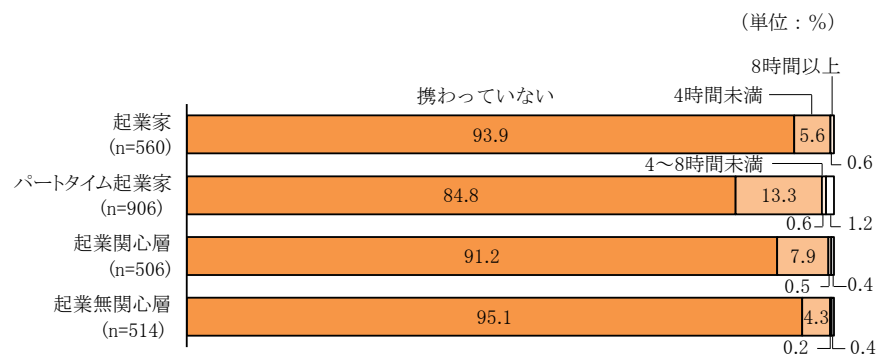


図-7 介護に携わっている時間



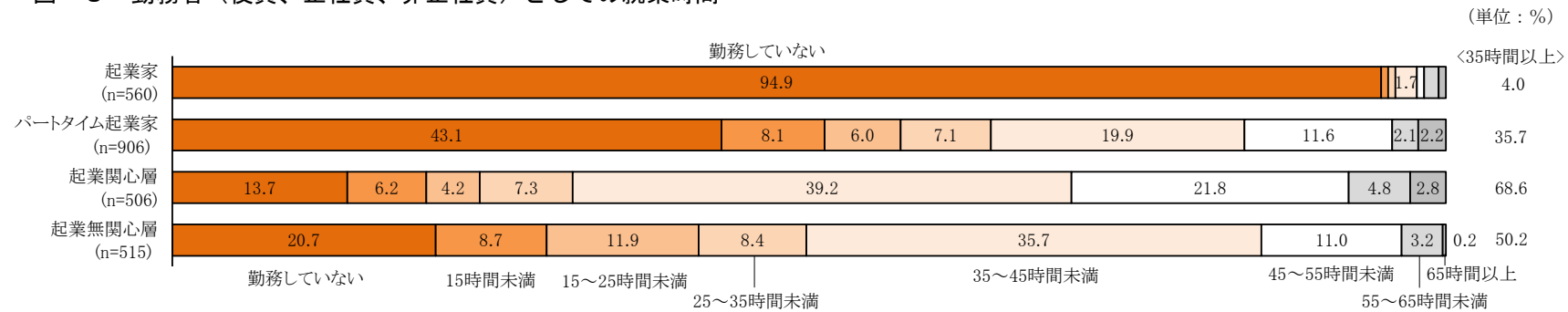
(注) 起業家における「4～8時間未満」の割合は0.0%であった。

(2) 働き方

～起業無関心層では「私生活との両立」を重視する割合が高い～

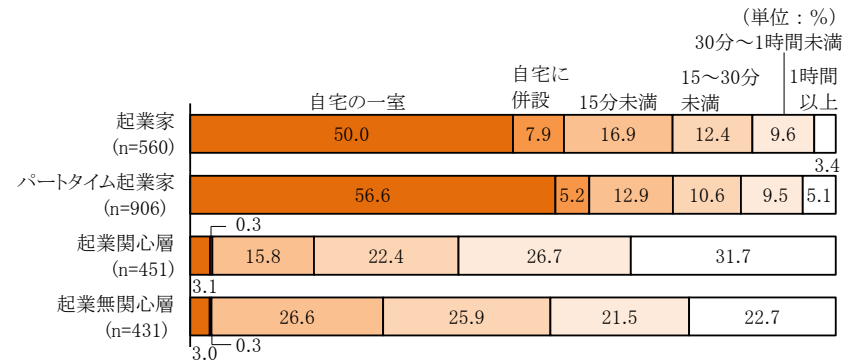
- 勤務者（役員、正社員、非正社員）としての就業時間をみると、「35時間以上」の割合は起業関心層（68.6%）と起業無関心層（50.2%）で高く、パートタイム起業家では35.7%、起業家では4.0%であった（図-8）。
- 通勤時間が「1時間以上」である割合は、起業関心層（31.7%）と起業無関心層（22.7%）で高い（図-9）。起業家（50.0%）、パートタイム起業家（56.6%）では「自宅の一室」が半数以上となっている。
- 仕事をするうえで最も重視することをみると、起業家と起業無関心層では「私生活との両立」（順に34.6%、46.9%）が最も多く、パートタイム起業家と起業関心層では「収入」（順に38.2%、41.2%）が最も多い（図-10）。

図-8 勤務者（役員、正社員、非正社員）としての就業時間



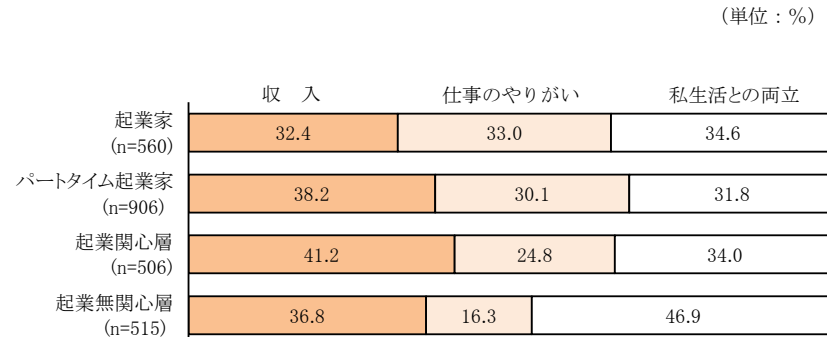
(注) 1 起業家、パートタイム起業家については、事業に充てる時間は含まない。
 2 起業家について、値の記載を一部省略した。省略した数値は次のとおり。「15時間未満」0.6%、「15~25時間未満」0.0%、「25~35時間未満」0.6%、「35~45時間未満」1.7%、「45~55時間未満」0.6%、「55~65時間未満」1.1%、「65時間以上」0.6%。

図-9 仕事の場所と通勤時間



(注) 1 起業家、パートタイム起業家は事業を行っている場所までの通勤時間を尋ねた。
 2 起業関心層、起業無関心層は、現在の職業が勤務者である人へのみ、勤務先までの通勤時間を尋ねた。

図-10 仕事をするうえで最も重視すること



2 起業家の実態

(1) 主な属性

～サービスを起業する割合は3割を超える～

- 起業した業種は、「個人向けサービス業」の割合が起業家（19.7%）とパートタイム起業家（20.6%）ともに最も高く、「事業所向けサービス業」（起業家16.3%、パートタイム起業家11.2%）がそれに続く（表）。起業家、パートタイム起業家ともにサービス業が占める割合は3割を超えている。
- 組織形態は、「個人企業」の割合が起業家で86.1%、パートタイム起業家で95.6%と大半を占める（図-11）。
- 現在の従業者数をみると、「1人（本人のみ）」が起業家（74.0%）、パートタイム起業家（74.7%）ともに最も多い（図-12）。

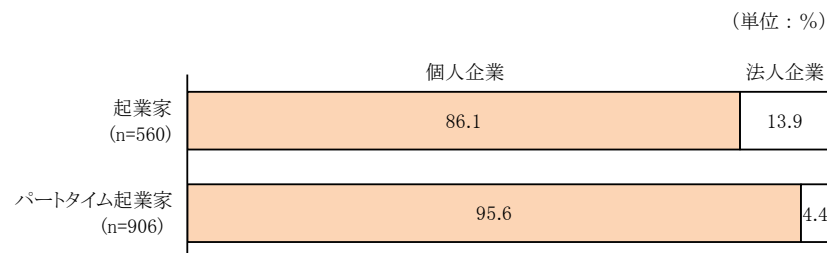
表 業種構成

(単位：%)

	起業家 (n=560)	パートタイム 起業家 (n=906)
建設業	6.7	7.0
製造業	3.9	6.8
情報通信業	12.4	10.2
運輸業	6.2	3.0
卸売業	3.4	3.7
小売業	9.6	10.0
飲食店・宿泊業	5.1	4.7
医療・福祉	5.1	7.2
教育・学習支援業	3.9	8.6
個人向けサービス業	19.7	20.6
事業所向けサービス業	16.3	11.2
不動産業、物品賃貸業	2.8	3.6
その他	5.1	3.5
合計	100.0	100.0

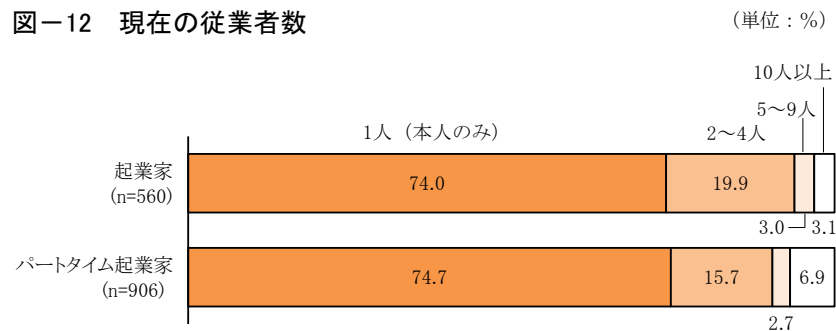
- (注) 1 起業家、パートタイム起業家に尋ねたもの（以下図-38まで同じ）。
- 2 複数の事業を経営している場合は、最も売上高が大きいものについて尋ねた（以下同じ）。
- 3 「持ち帰り・配達飲食サービス業」は「小売業」に含む。

図-11 組織形態



(注) 現在の職業を「事業経営者」と回答しなかった起業家、パートタイム起業家は「個人企業」とみなして集計した。

図-12 現在の従業者数



～起業家の約2割、パートタイム起業家の約5割が勤務しながら起業している～

- 主な販売先・顧客が「一般消費者」である割合は、パートタイム起業家（63.4%）のほうが起業家（58.1%）よりも高い（図-13）。
- 商品・サービスの新規性が「ある」とする割合は、起業家が48.0%とパートタイム起業家（41.1%）に比べて高い（図-14）。
- 開業時の勤務状況をみると、起業家は「勤務を辞めてから事業を始めた」（65.7%）、パートタイム起業家は「現在も勤務しながら事業を行っている」（42.4%）が最も高い（図-15）。「勤務しながら起業した」割合は起業家で22.5%、パートタイム起業家では51.6%と半数を超える。
- 勤務先からの離職理由をみると、「自らの意思による退職」は起業家が84.2%と、パートタイム起業家（78.1%）に比べて多い（図-16）。一方、「定年退職」の割合は、パートタイム起業家が7.4%と起業家（3.8%）を上回る。

図-13 主な販売先・顧客

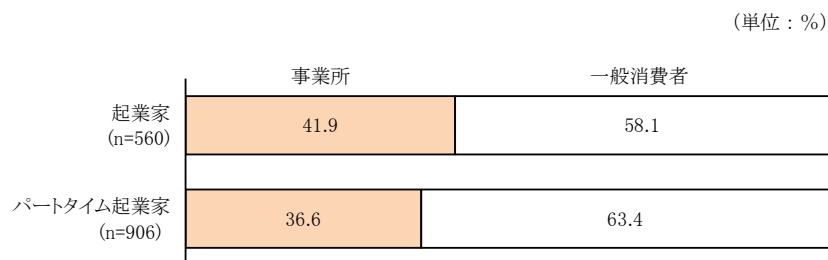


図-15 開業時の勤務状況

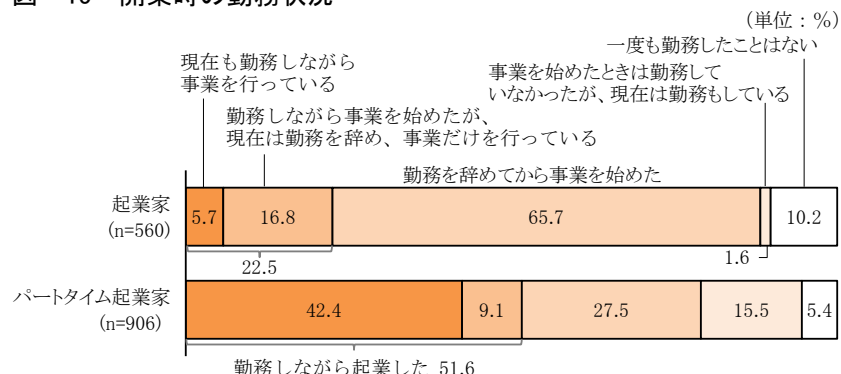


図-14 商品・サービスの新規性

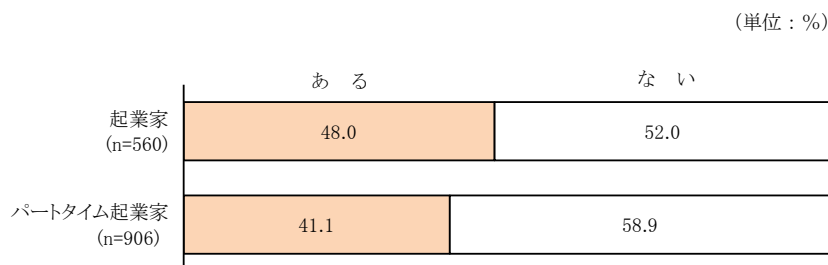
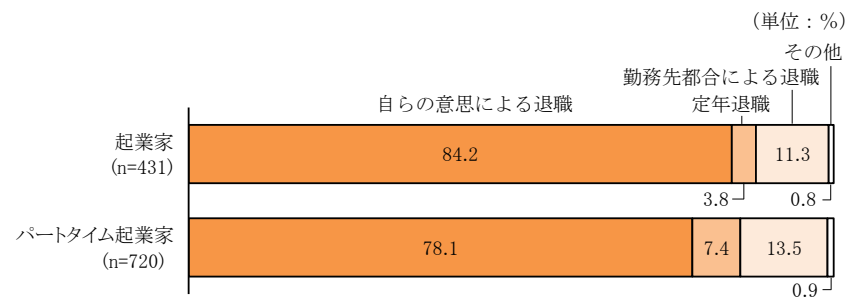


図-16 勤務先からの離職理由



(注) 「大いにある」「ある程度ある」を合算して「ある」、「まったくない」「あまりない」を合算して「ない」とした。

(注) 「勤務先都合による退職」は、「事業部門の縮小・撤退に伴う離職」「勤務先の廃業による離職」「勤務先の倒産による離職」「解雇」の合計。

～事業収入以外に定期的な収入がある起業家は約6割、パートタイム起業家では8割を超える～

- 事業からの収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合が「100%（ほかの収入はない）」である人は起業家で37.6%と、パートタイム起業家（12.5%）を大きく上回っている（図-17）。一方、パートタイム起業家は「5～25%未満」が31.6%と最も多く、次いで「5%未満」が24.2%を占める。
- 事業からの収入が世帯収入に占める割合は、起業家では「100%（ほかの収入はない）」が27.8%と、パートタイム起業家（6.6%）を大幅に上回っている（図-18）。

図-17 事業からの収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合

(単位：%)

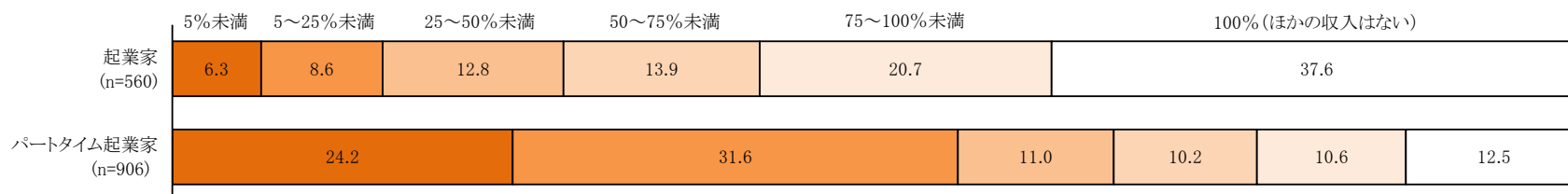
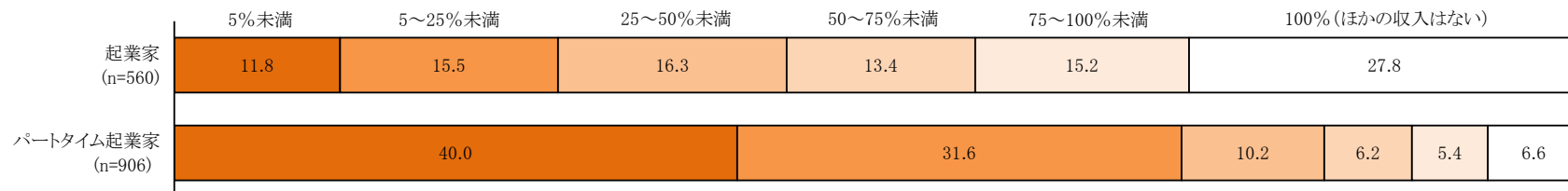


図-18 事業からの収入が世帯収入に占める割合

(単位：%)

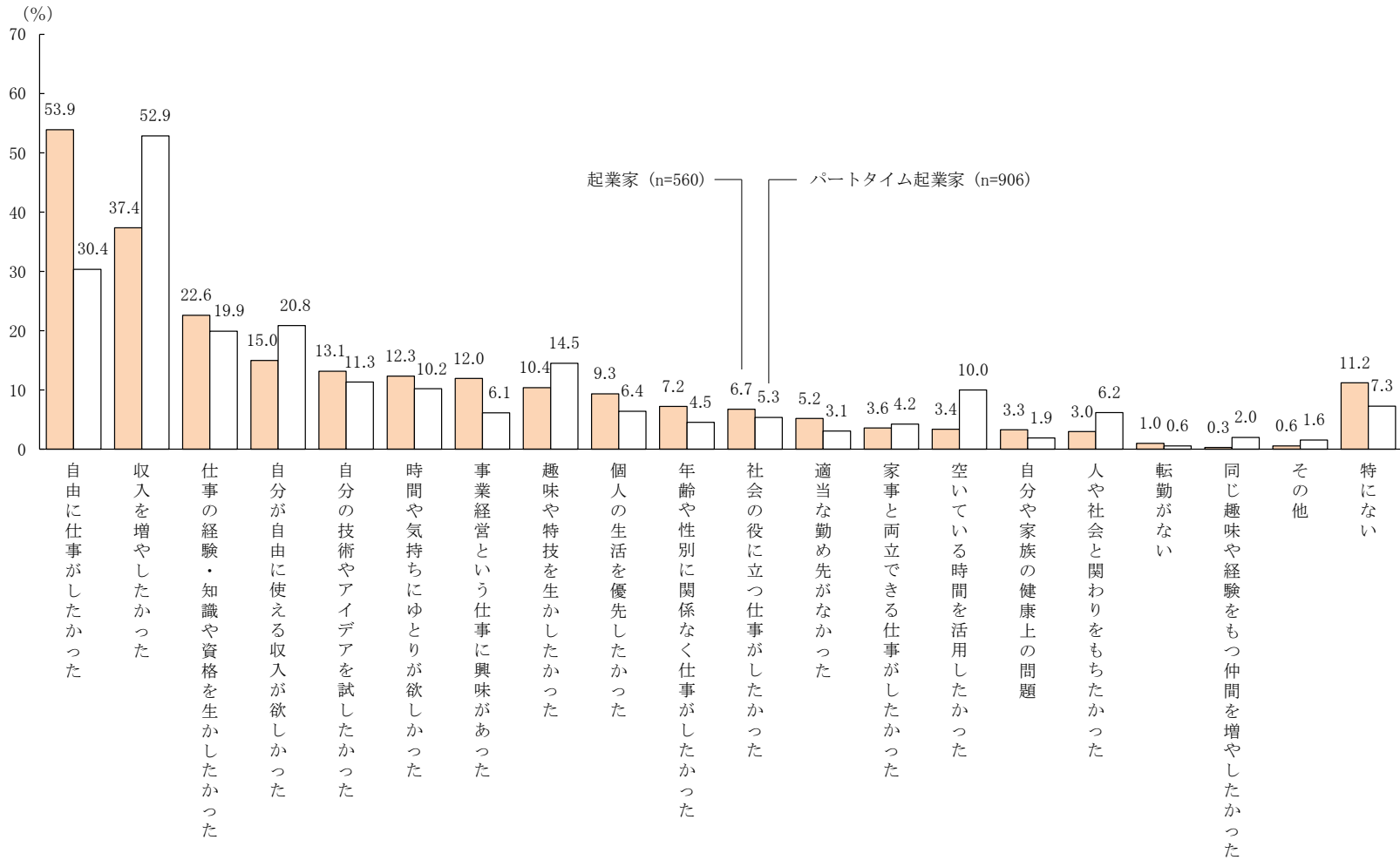


(2) 起業動機と事業の進め方

～起業動機で最も多いのは起業家では「自由に仕事をしたかった」、パートタイム起業家では「収入を増やしたかった」～

○ 起業動機をみると、起業家では「自由に仕事をしたかった」(53.9%)が最も多く、「収入を増やしたかった」(37.4%)がそれに続く(図-19)。一方、パートタイム起業家では「収入を増やしたかった」(52.9%)、「自由に仕事をしたかった」(30.4%)の順に多い。「自分が自由に使える収入が欲しかった」や「趣味や特技を生かしたかった」「空いている時間を活用したかった」などはパートタイム起業家のほうが起業家の割合を上回っている。

図-19 起業動機 (三つまでの複数回答)



～自己資金だけで起業する人が7割を超える～

- 起業費用をみると、起業家では「50万円未満」とする割合が30.2%と最も高く、「費用はかからなかった」（25.1%）がそれに続く（図-20）。パートタイム起業家では「費用はかからなかった」とする割合が42.9%と最も高く、「50万円未満」（39.5%）を合わせると8割を超える。
- 起業費用に占める自己資金の割合が「100%（自己資金だけで起業）」である割合は、起業家（75.2%）、パートタイム起業家（70.4%）ともに7割を超える（図-21）。
- 起業時に金融機関からの「借入なし」の割合は起業家で87.2%、パートタイム起業家で88.3%とともに大半を占める（図-22）。
- 起業費用の調達額に対する満足度をみると、「希望どおり調達できた」とする割合が起業家で72.4%、パートタイム起業家で68.9%とともに最も高い（図-23）。

図-20 起業費用

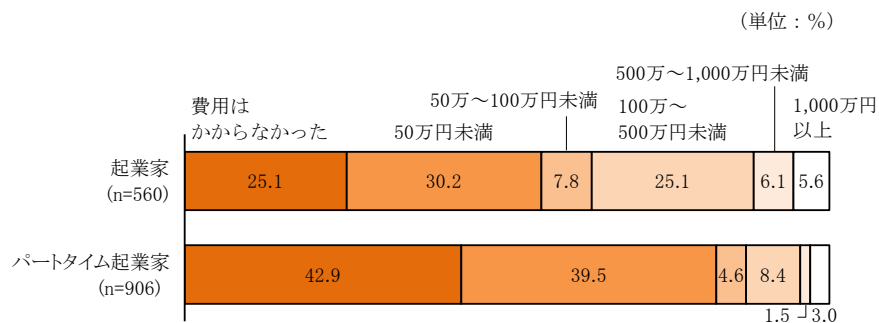
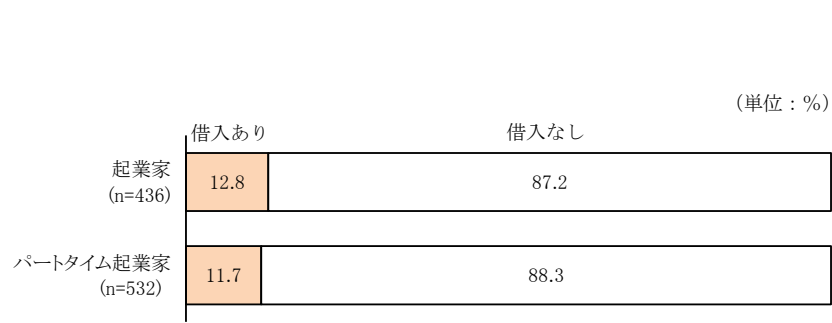
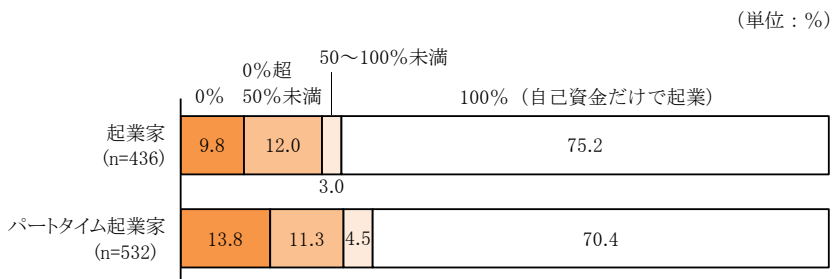


図-22 起業時の金融機関借入の有無



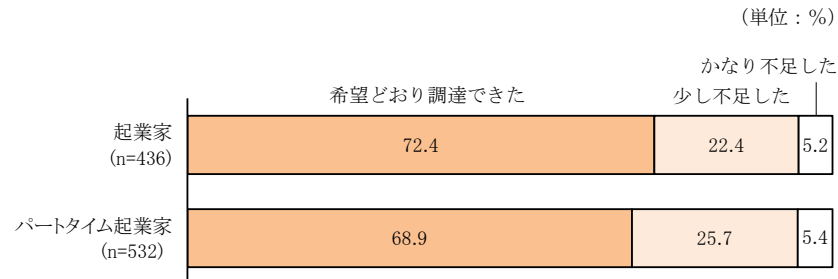
(注) 1 金融機関借入とは、民間金融機関（地方自治体の制度融資を含む）および日本政策金融公庫・沖縄振興開発金融公庫からの借入である。
2 図-21（注）に同じ。

図-21 起業費用に占める自己資金割合



(注) 費用がかかったと回答した人を集計した。

図-23 起業費用の調達額に対する満足度

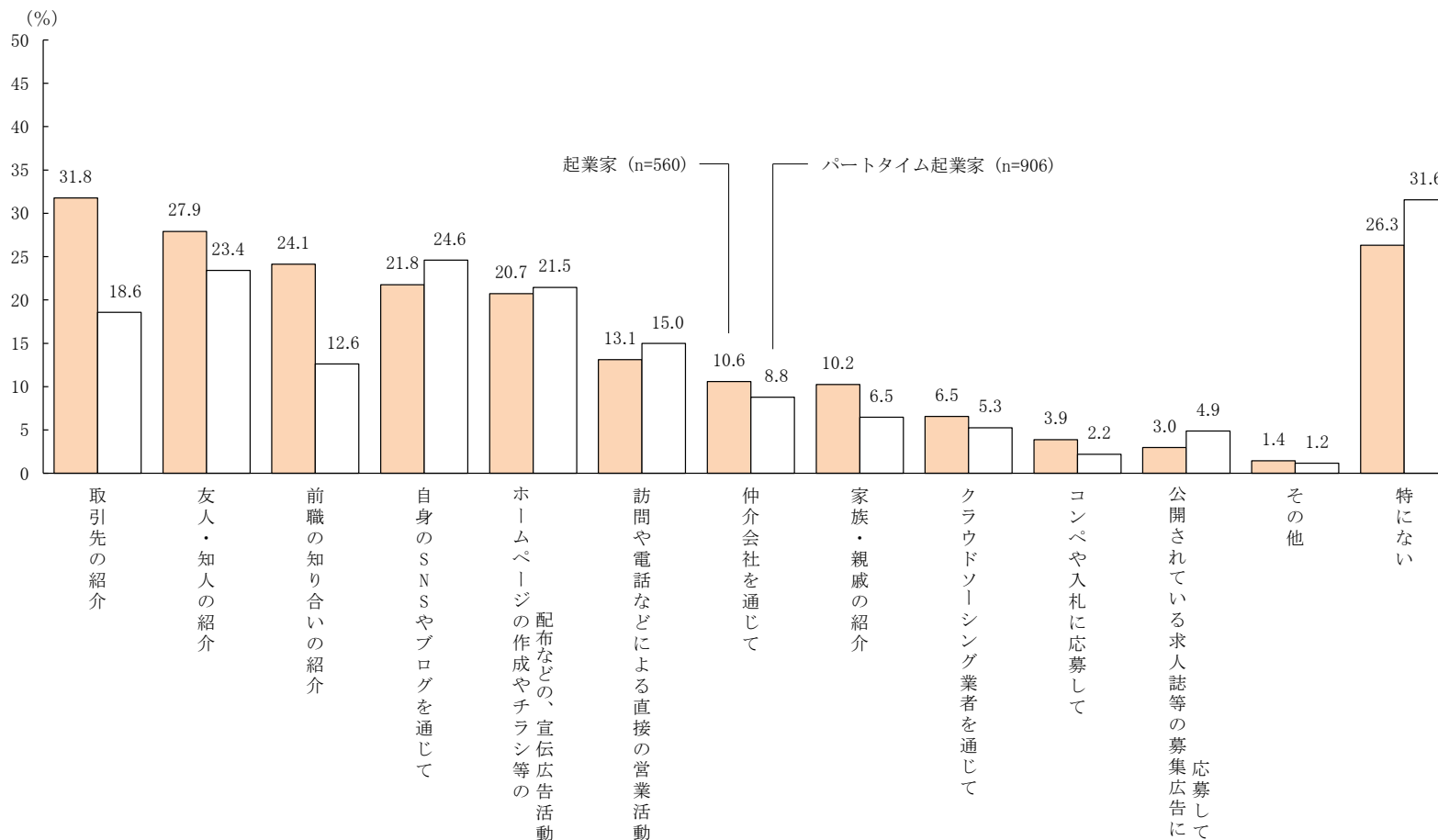


(注) 図-21（注）に同じ。

～受注経路は起業家はパートタイム起業家比べて人脈を活用する傾向がある～

○ 仕事の受注経路をみると、起業家では「取引先の紹介」（31.8%）、「友人・知人の紹介」（27.9%）、「特にない」（26.3%）の順に多い（図-24）。一方、パートタイム起業家では「特にない」が31.6%と最も多く、次いで「自身のSNSやブログを通じて」（24.6%）、「友人・知人の紹介」（23.4%）の順となっている。そのほか、「ホームページの作成やチラシ等の配布などの、宣伝広告活動」「訪問や電話などによる直接の営業活動」「公開されている求人誌等の募集広告に応募して」の割合は、パートタイム起業家のほうが起業家よりも高い。

図-24 受注経路（複数回答）



～起業家のほうがパートタイム起業家よりも仕事をするうえでの裁量が大きい～

- 仕事や作業を行う場所を「通常は自分の意向で決められる」とする割合は、起業家（74.4%）がパートタイム起業家（64.2%）に比べて高い（図-25）。
- 仕事や作業を行う時間帯を「通常は自分の意向で決められる」とする割合は、起業家（72.4%）がパートタイム起業家（61.5%）に比べて高い（図-26）。
- 仕事や作業を行う報酬は、起業家では「発注者と自分が相談しながら決定する」人が40.8%と最も多く、「主に自分が決定する」（31.8%）がそれに続く（図-27）。一方で、パートタイム起業家は「主に発注者が決定する」が37.2%と最も多い。
- 仕事や作業を「断れる」とする割合は、起業家が46.9%とパートタイム起業家（51.4%）を下回っている（図-28）。

図-25 仕事や作業を行う場所の裁量

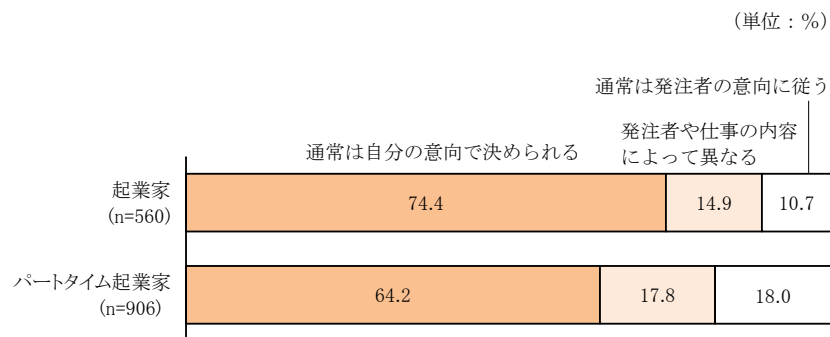


図-27 仕事や作業を行う報酬を決めるうえでの裁量

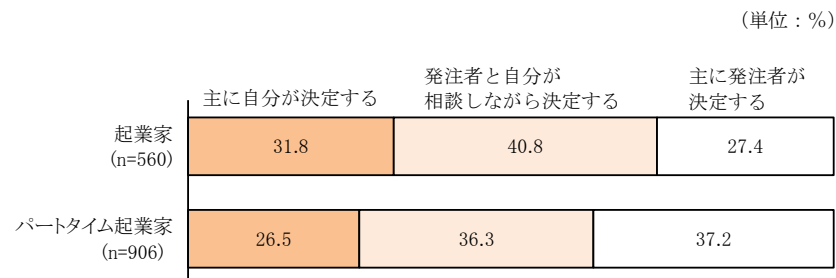


図-26 仕事や作業を行う時間帯の裁量

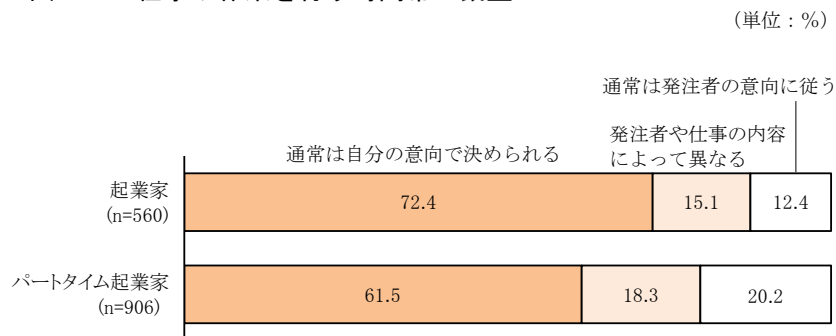
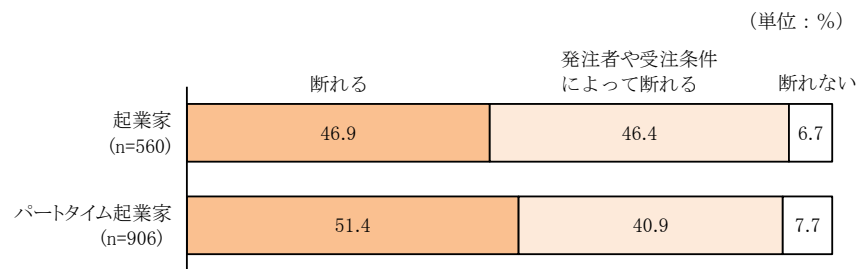


図-28 仕事や作業を断ることができるか

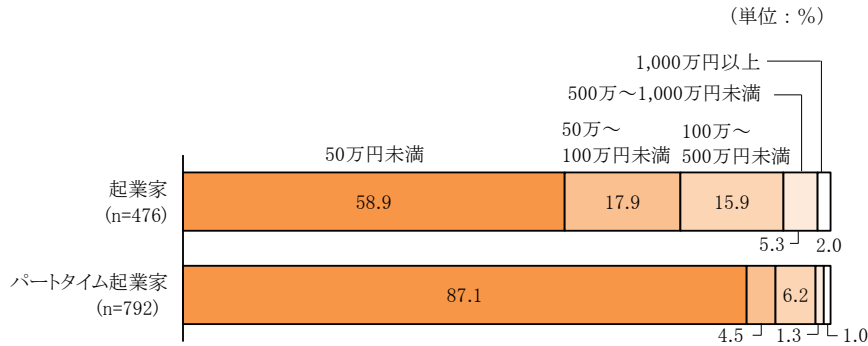


(3) 業績

～売上状況が「増加傾向」の割合はパートタイム起業家より起業家のほうが高い～

- 現在の月商が「50万円未満」である割合はパートタイム起業家では87.1%と、起業家（58.9%）に比べてかなり高い（図-29）。
- 売上状況は、「横ばい」が起業家（46.9%）、パートタイム起業家（57.0%）ともに最も多い（図-30）。「増加傾向」の割合は、起業家（25.1%）のほうがパートタイム起業家（17.0%）よりも高い。
- 現在の採算状況が「黒字基調」である割合は、起業家（68.7%）、パートタイム起業家（70.8%）ともに「赤字基調」の割合を大きく上回っている（図-31）。
- 現在の業況は、起業家、パートタイム起業家ともに「良い」が「悪い」を上回っている（図-32）。パートタイム起業家のほうが起業家に比べて「良い」と「やや良い」の合計（順に62.8%、54.2%）が高い。

図-29 現在の月商



(注) 「わからない」「答えたくない」と回答した人を除いて集計した。

図-30 売上状況

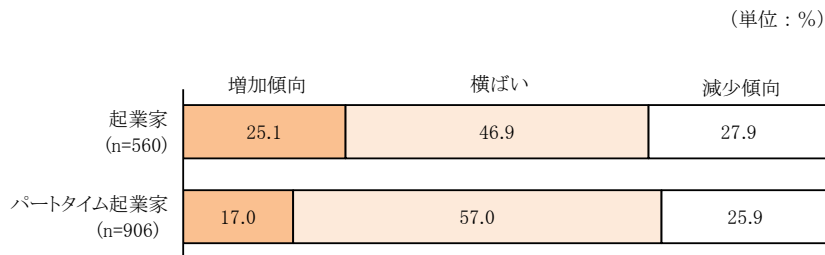


図-31 現在の採算状況

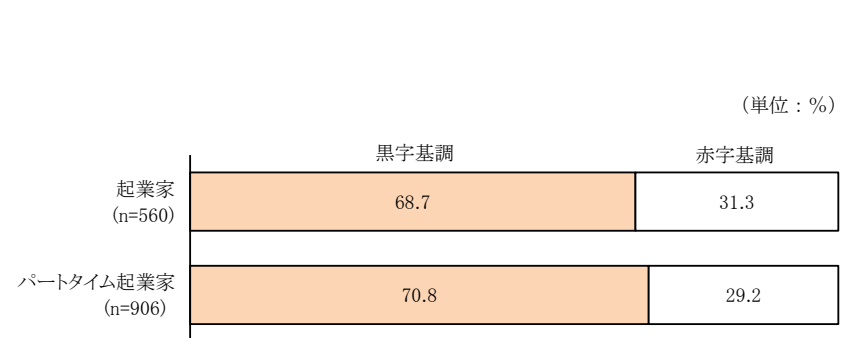
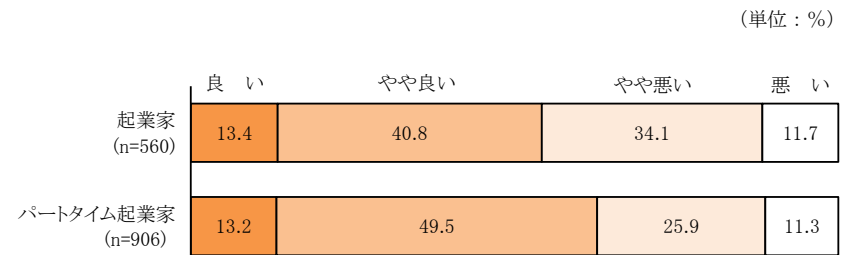


図-32 現在の業況

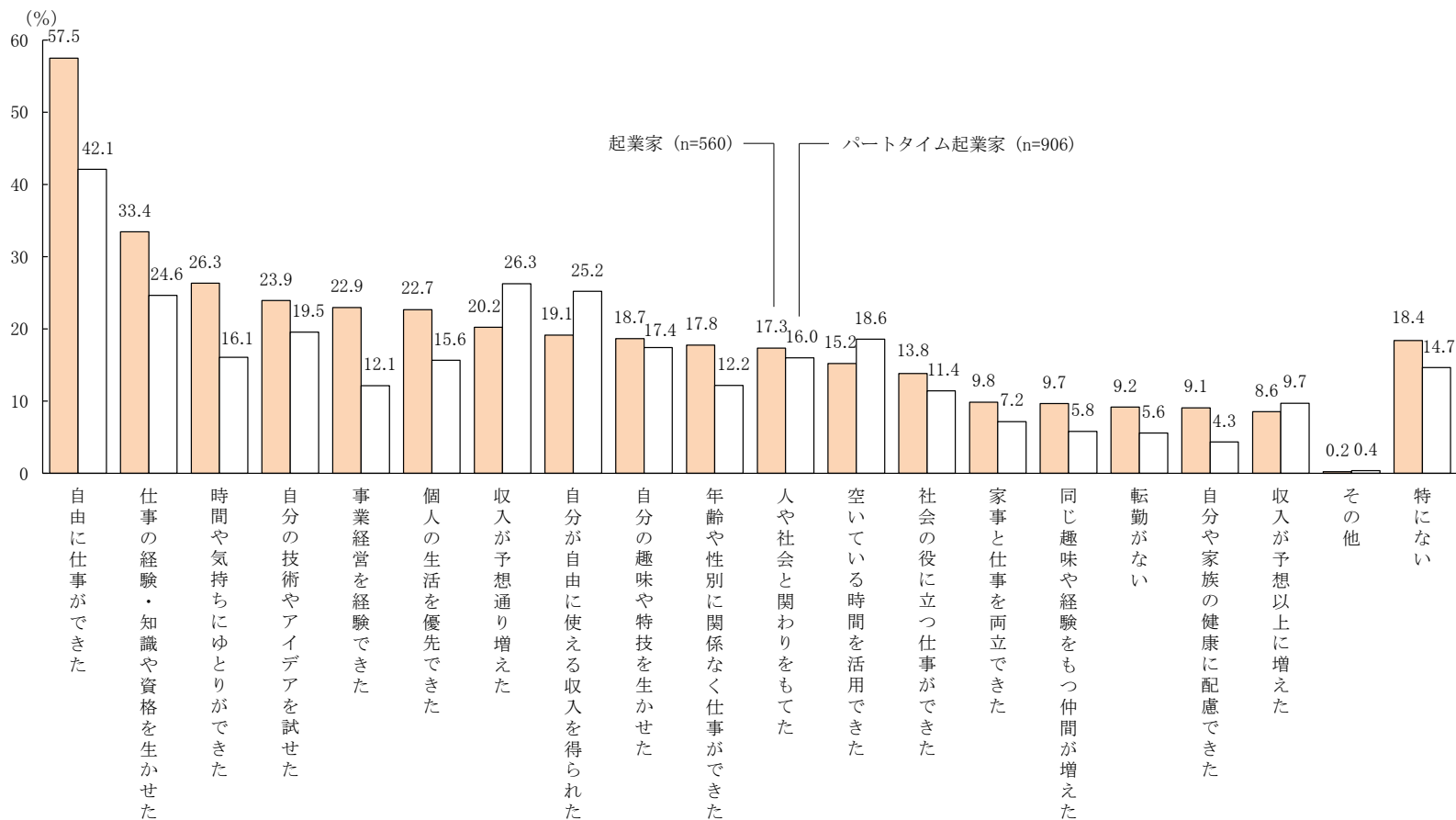


(4) 評価と課題

～事業を始めてよかったことは「自由に仕事ができる」が最も多い～

○ 事業を始めてよかったことは、「自由に仕事ができる」が起業家（57.5%）、パートタイム起業家（42.1%）ともに最も多い（図-33）。2番目に多いのは起業家で「仕事の経験・知識や資格を生かした」（33.4%）、パートタイム起業家で「収入が予想通り増えた」（26.3%）となっている。

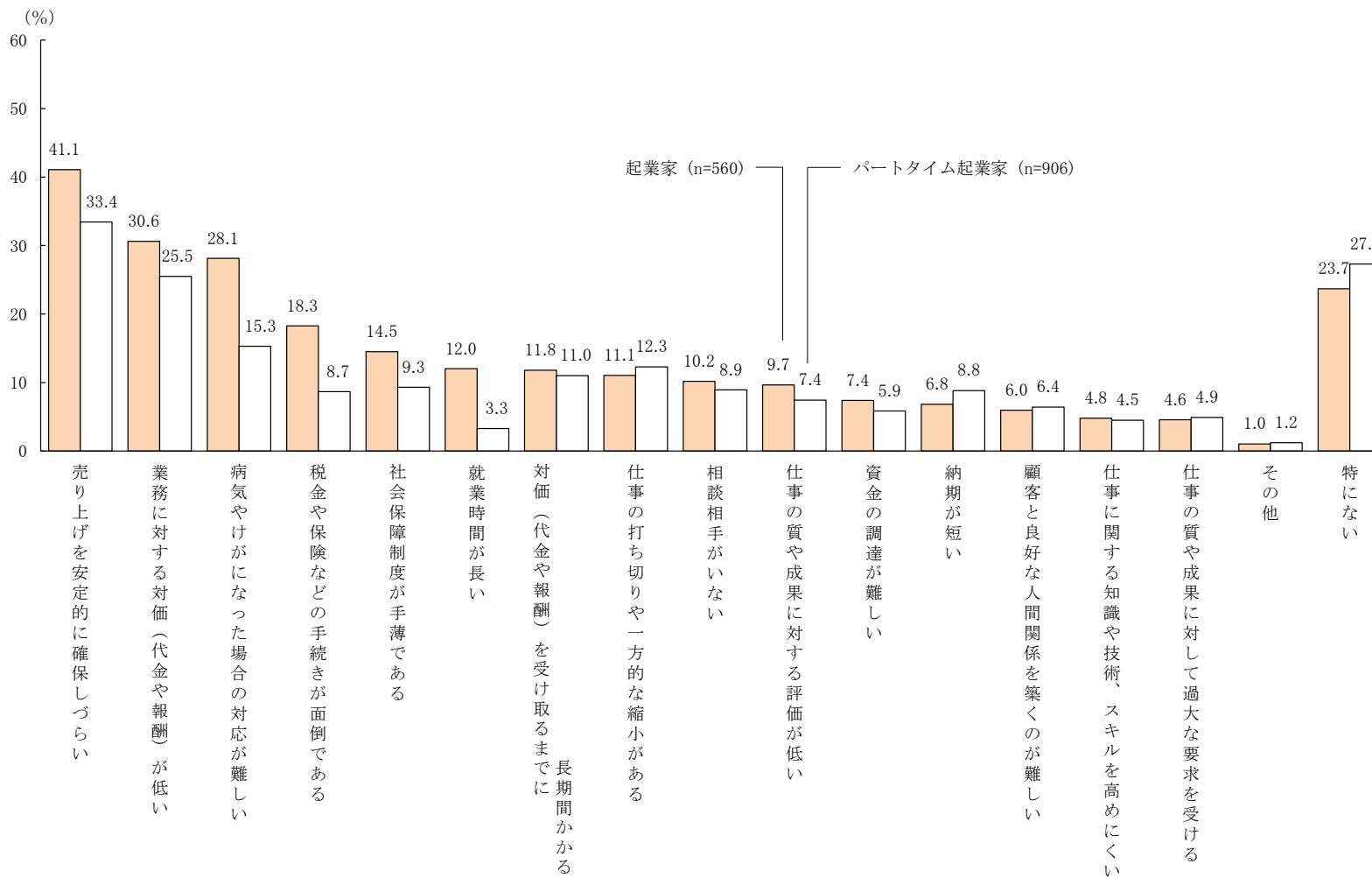
図-33 事業を始めてよかったこと（複数回答）



～売り上げの安定的な確保が課題～

○ 事業を行ううえで問題だと感じていることは、「売り上げを安定的に確保しづらい」が起業家（41.1%）、パートタイム起業家（33.4%）ともに最も多い（図-34）。2番目に多いのは、起業家で「業務に対する対価（代金や報酬）が低い」（30.6%）、パートタイム起業家で「特にない」（27.3%）であった。起業家でも「特にない」は23.7%と2割を超えている。

図-34 事業を行ううえで問題だと感じていること（複数回答）



(5) 今後の方針

～今後売上高を「増やす」方針である起業家は約7割、パートタイム起業家は約4割～

- 今後売上高を「増やす」方針である割合は、起業家では72.1%とパートタイム起業家（45.8%）に比べて高い（図-35）。
- 従業員数の今後の方針は、「どちらでも構わない」とする割合が起業家（72.1%）、パートタイム起業家（74.9%）ともに最も高く、7割を超えている（図-36）。
- 勤務をしながら事業を運営している人に事業を専業にするか尋ねると、「勤務と事業の両立を続ける」とする回答が起業家（45.5%）、パートタイム起業家（56.6%）ともに最も多い（図-37）。「事業を専業とする」とする割合は起業家（36.4%）のほうがパートタイム起業家（16.8%）に比べて高い。
- 事業の継続について「承継したい」とする割合は、起業家（14.0%）、パートタイム起業家（16.6%）ともに2割を下回る（図-38）。

図-35 今後の方針（売上高）

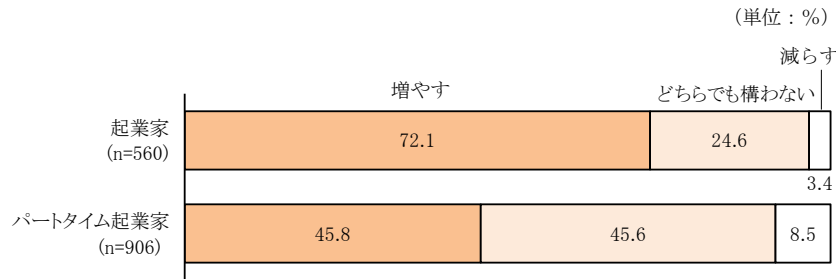
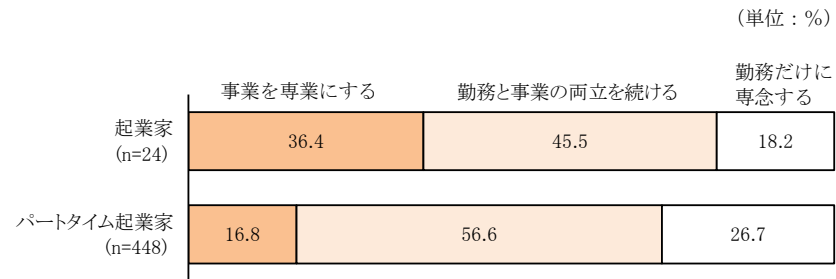


図-37 今後の方針（事業を専業にするか）



(注) 現在の職業を「勤務者」（役員、正社員、パート・アルバイトなど非正社員のいずれか）と回答した起業家、パートタイム起業家に尋ねた。

図-36 今後の方針（従業員数）

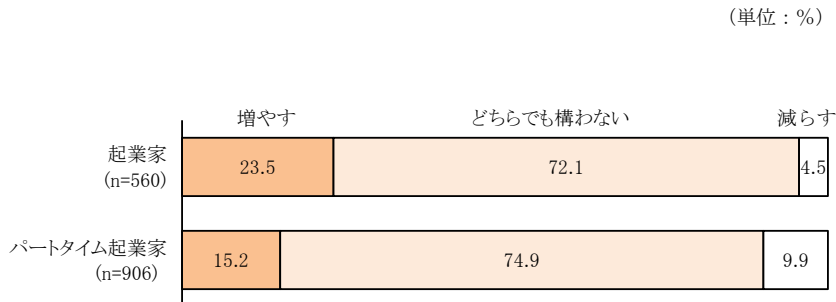
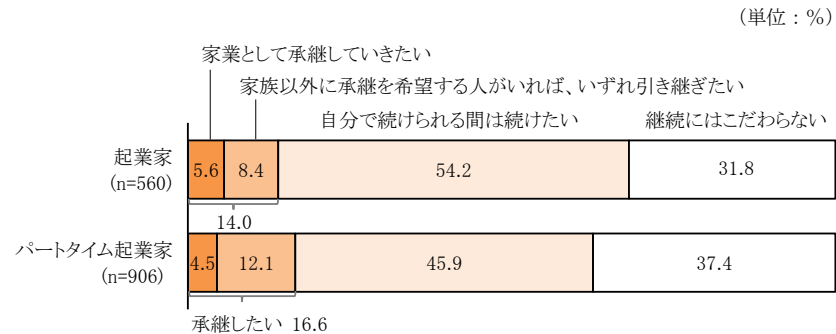


図-38 事業の継続



3 起業関心層の実態

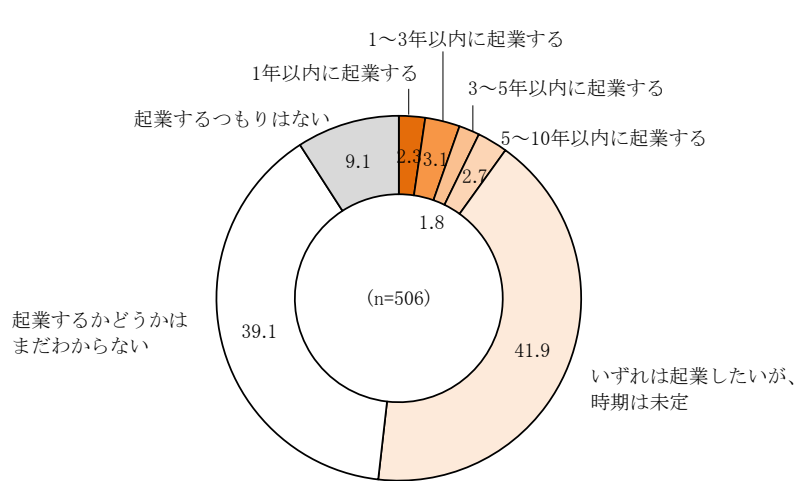
～起業関心層の約半数が起業したいと考えている～

- 起業関心層に起業予定の有無を尋ねると、「いずれは起業したいが、時期は未定」とする割合が41.9%と最も高い（図-39（1））。10年以内に起業する予定の人は9.9%おり、起業関心層の半数以上が「起業したい」と考えている。
- 性別にみると、「起業したい」とする割合は、男性（57.0%）のほうが女性（44.1%）よりも高い（同（2））。「起業するつもりはない」とする割合は、女性（12.4%）が男性（6.9%）よりも高い。
- 年齢別にみると、「起業したい」と考えている割合は30歳代（54.9%）が最も高い（同（3））。

図-39 起業予定の有無

（1）起業関心層全体

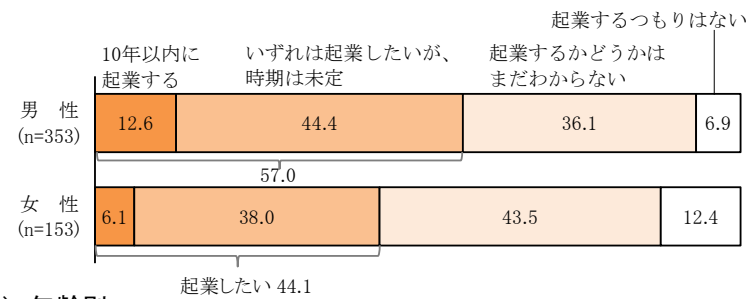
（単位：％）



（注）起業関心層に尋ねたもの（以下図-43まで同じ）。

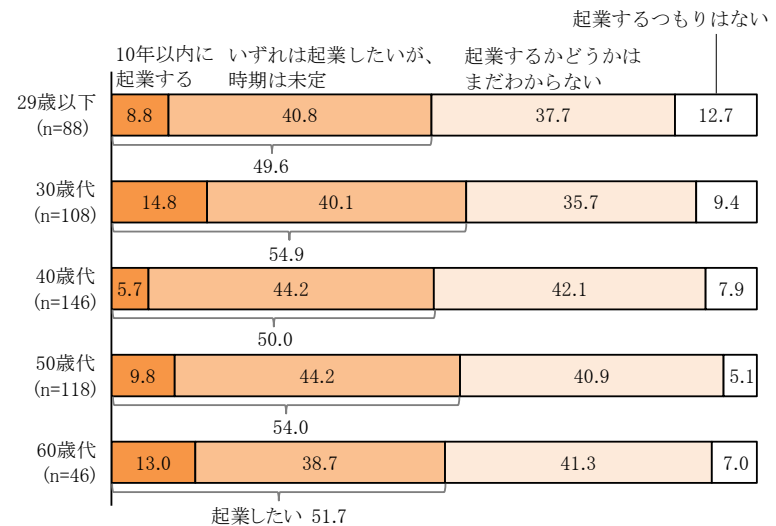
（2）性別

（単位：％）



（3）年齢別

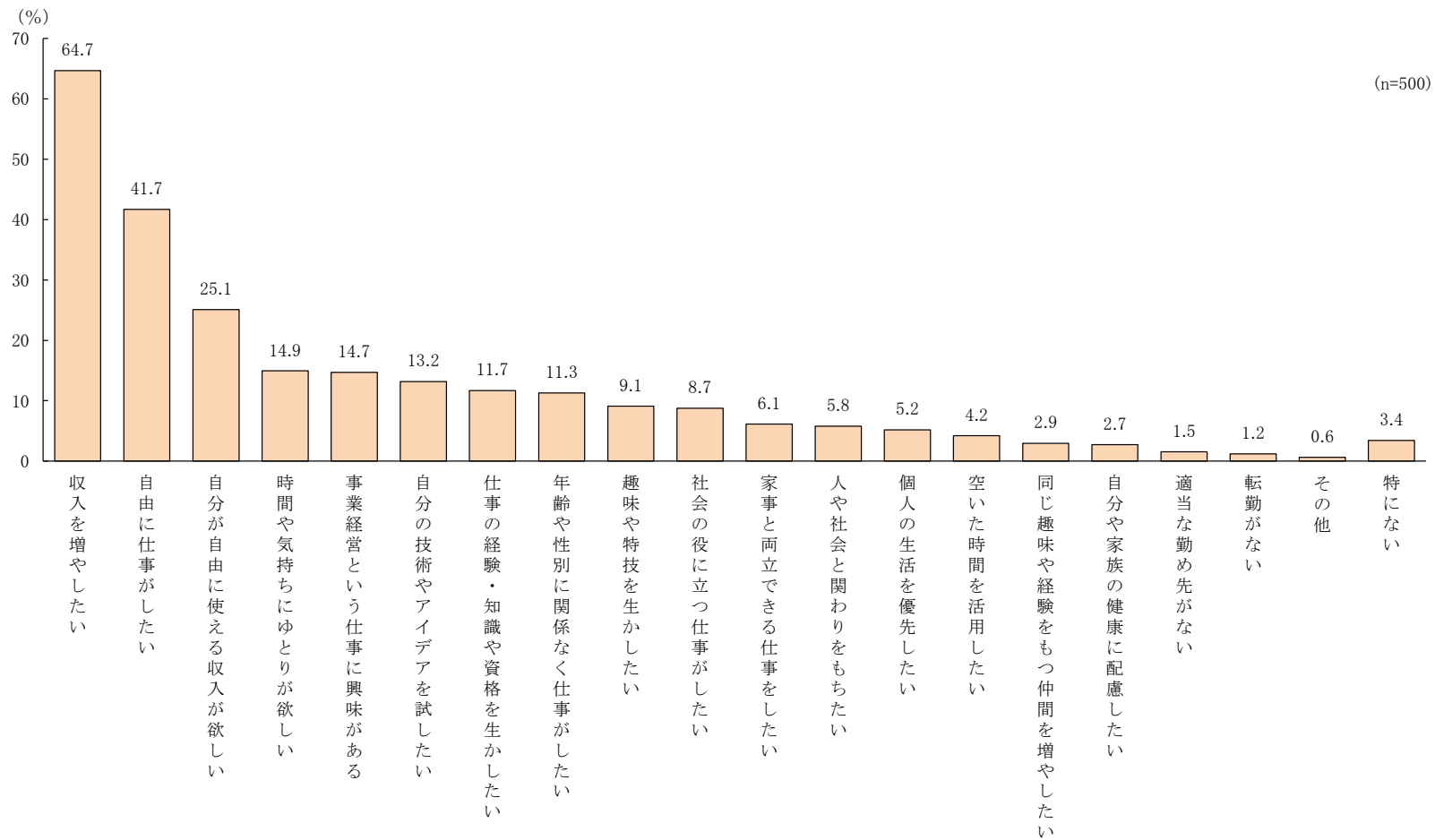
（単位：％）



～「収入を増やしたい」「自由に仕事がしたい」が起業に関心をもった大きな理由～

○ 起業関心層が起業に関心をもった理由は、「収入を増やしたい」が64.7%と最も多く、「自由に仕事がしたい」（41.7%）、「自分が自由に使える収入が欲しい」（25.1%）と続く（図-40）。

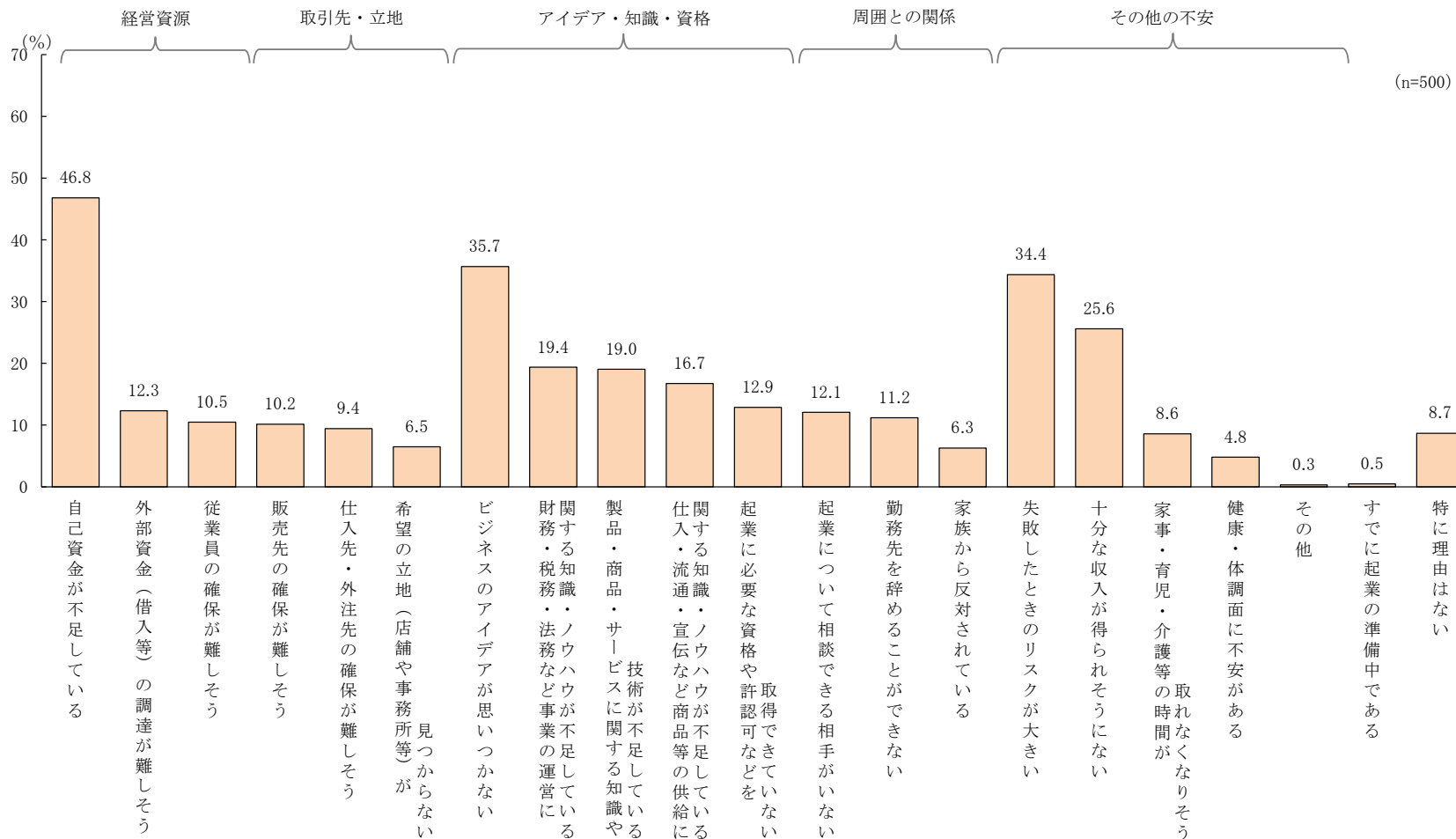
図-40 起業に関心をもった理由（三つまでの複数回答）



～「自己資金が不足している」「ビジネスのアイデアが思い浮かばない」がまだ起業していない大きな理由～

○ 起業関心層がまだ起業していない理由は、「自己資金が不足している」とする割合が46.8%と最も高く、「ビジネスのアイデアが思い浮かばない」(35.7%)、「失敗したときのリスクが大きい」(34.4%)と続く(図-41)。

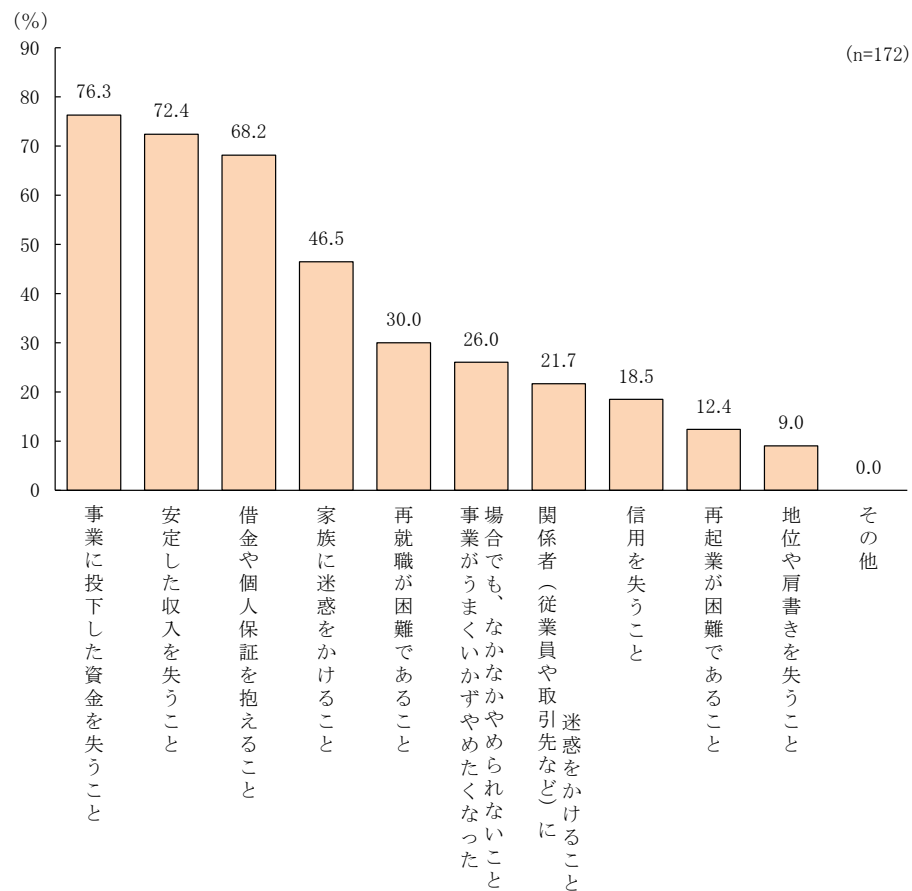
図-41 まだ起業していない理由(複数回答)



～起業のリスクとして資金面の問題を挙げる割合が高い～

○ 起業に失敗したときのリスクの内容は、「事業に投下した資金を失うこと」(76.3%)が最も多く、「安定した収入を失うこと」(72.4%)、「借金や個人保証を抱えること」(68.2%)と続く(図-42)。起業費用や収入、借入といった資金面の問題をリスクとして考えている割合が相対的に高いといえる。

図-42 失敗したときのリスク(複数回答)

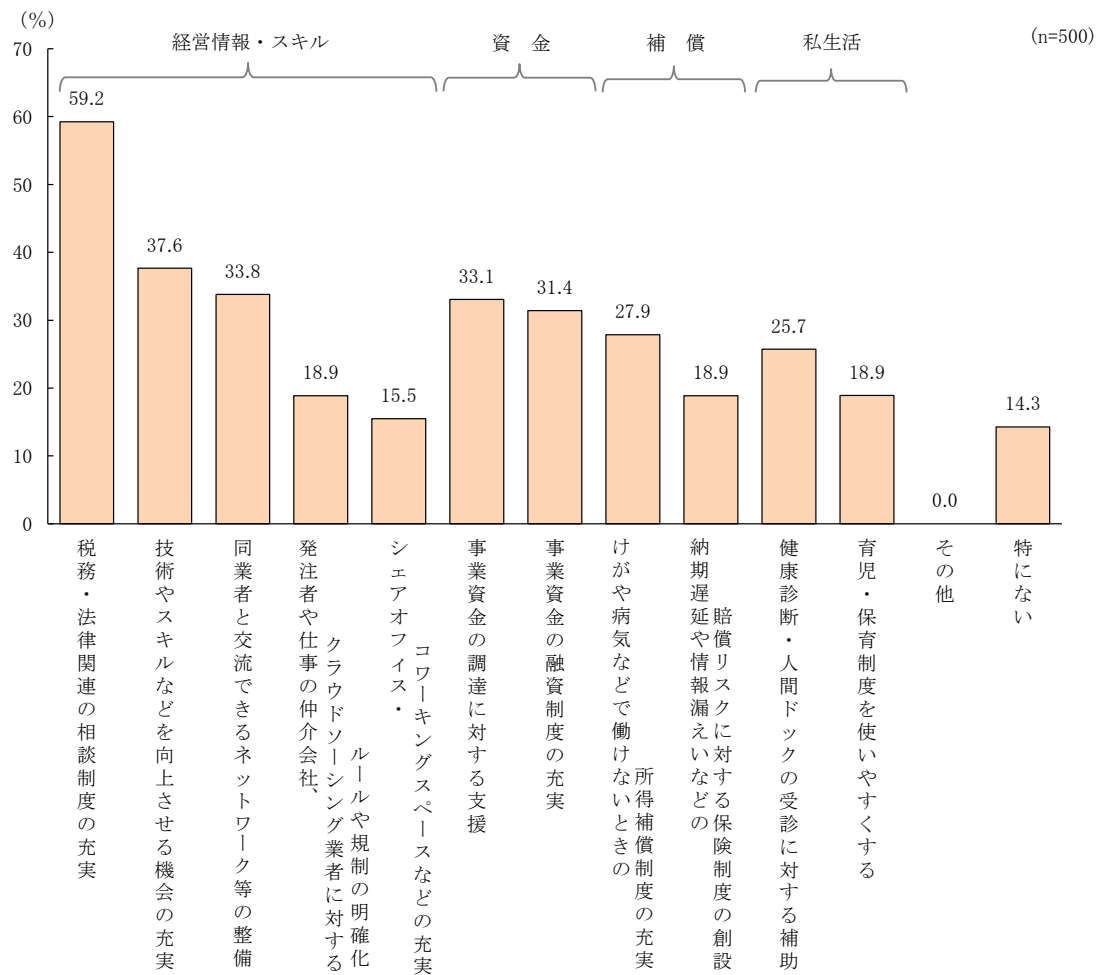


(注) まだ起業していない理由として、「失敗したときのリスクが大きい」と回答した人に尋ねた設問である。

～起業の際に支援策として「税務・法律関連の相談制度の充実」を求める～

○ 起業する際にあったらよいと思う支援策は、「税務・法律関連の相談制度の充実」を挙げる割合が59.2%と最も高く、「技術やスキルなどを向上させる機会の充実」(37.6%)、「同業者と交流できるネットワーク等の整備」(33.8%)が続く(図-43)。「事業資金の調達に対する支援」(33.1%)、「事業資金の融資制度の充実」(31.4%)を挙げる割合は4番目、5番目の水準となっており、資金面よりも経営スキルの面での支援がより求められている。

図-43 起業する際にあったらよいと思う支援策（複数回答）



4 起業家・パートタイム起業家・起業関心層・起業無関心層の満足度

～起業家・パートタイム起業家の満足度は相対的に高く、起業関心層の満足度は相対的に低い～

- 四つの類型について収入に関する満足度をみると、「かなり満足」の割合はパートタイム起業家が10.0%と最も高い（図-44）。「かなり不満」は起業家（19.6%）と起業家関心層（19.4%）で相対的に高い。
- 仕事のやりがいをみると、「かなり満足」と「やや満足」を合わせた割合は起業家（56.4%）とパートタイム起業家（49.2%）では起業家関心層（35.6%）や起業無関心層（36.4%）に比べて高い（図-45）。一方、起業関心層では「かなり不満」の割合が15.9%とその他の類型よりも高い。
- ワークライフバランスに「かなり満足」している割合をみると、パートタイム起業家で14.2%と最も高い（図-46）。一方、「かなり不満」とする割合は、起業関心層で11.8%と最も高くなっている。
- 総合的な満足度をみると、「かなり満足」の割合は起業家（11.7%）とパートタイム起業家（9.7%）が起業家関心層（5.8%）や起業無関心層（3.3%）よりも高い（図-47）。一方、「かなり不満」とする割合は、起業関心層が12.4%と最も高い。起業家やパートタイム起業家は相対的に満足度が高く、起業関心層は低いといえる。

図-44 収入に関する満足度

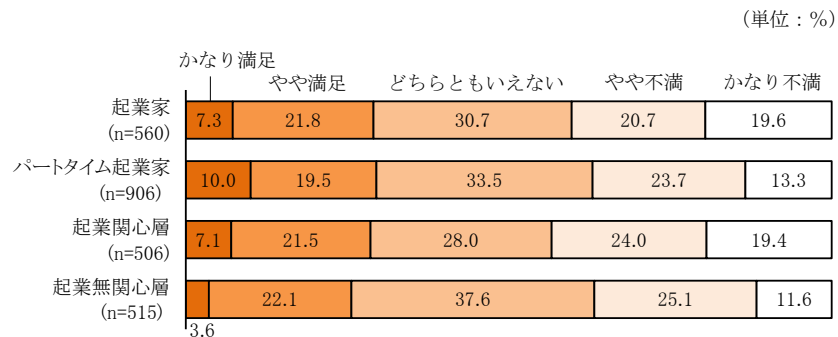


図-46 ワークライフバランスに関する満足度

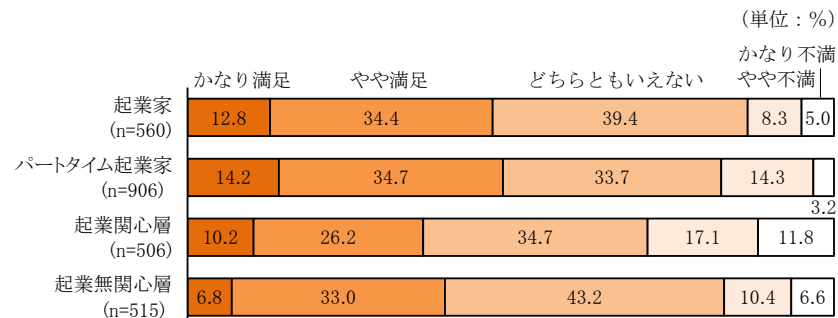


図-45 仕事のやりがいに関する満足度

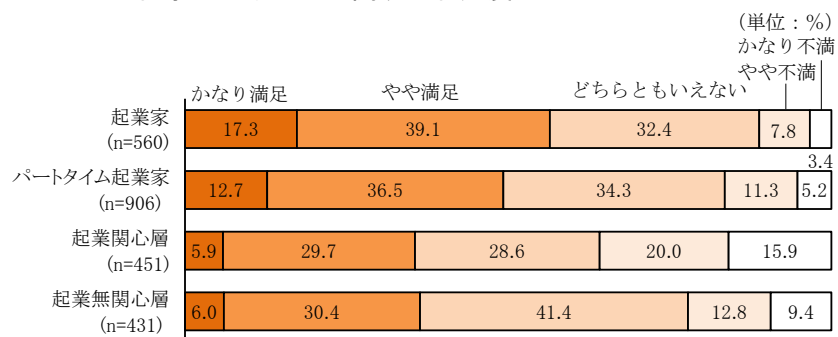
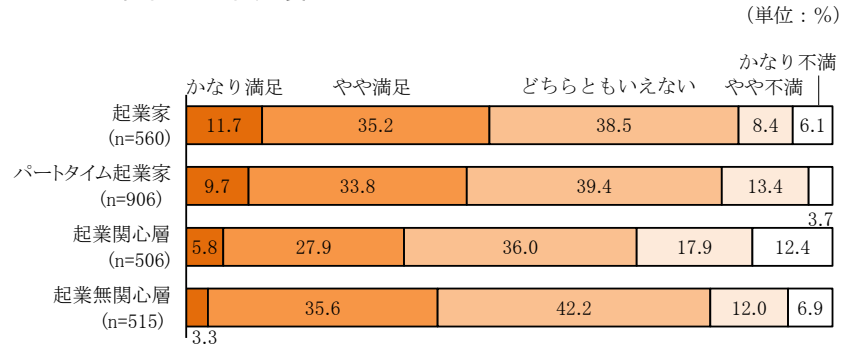


図-47 総合的な満足度



(注) 起業関心層、起業無関心層については、現在の職業が勤務者である人を集計した。

Ⅲ まとめ

1 パートタイム起業家は起業家比べて「29歳以下」や「女性」の割合がかなり高い (p.4)

事業に充てる時間が1週間当たり35時間未満のパートタイム起業家は、起業した年齢が「29歳以下」である割合が39.4%と、同35時間以上の起業家(20.7%)を大きく上回る(図-1)。性別をみると、パートタイム起業家の45.8%が「女性」であり、起業家(26.3%)と比べてかなり高い割合となっている(図-2)。現在の職業が「勤務者(正社員)」である割合はパートタイム起業家が41.8%と、起業家の3.9%に比べてかなり高い(図-3)。

2 パートタイム起業家は育児や介護に携わっている割合が相対的に高い (pp.5-6)

育児に携わっている人の割合は、起業関心層(31.3%)とパートタイム起業家(28.5%)で、起業家(21.5%)、起業無関心層(24.8%)に比べて高い(図-6)。介護に携わっている人の割合も、パートタイム起業家で15.2%と相対的に高い(図-7)。

通勤時間が「1時間以上」である割合は、起業関心層(31.7%)と起業無関心層(22.7%)で高い(図-9)。一方、「自宅の一室」で仕事をしている割合は、起業家(50.0%)とパートタイム起業家(56.6%)で半数以上となっている。

3 起業動機は起業家で「自由に仕事がしたかった」、パートタイム起業家で「収入を増やしたかった」が最多 (p.10)

起業動機を尋ねると、起業家では「自由に仕事がしたかった」(53.9%)、パートタイム起業家では「収入を増やしたかった」(52.9%)が最も多かった(図-19)。パートタイム起業家の割合が起業家を上回った回答は「収入を増やしたかった」のほか、「自分が自由に使える収入が欲しかった」や「趣味や特技を生かしたかった」「空いている時間を活用したかった」などであった。

4 自己資金だけで起業する人が7割を超える (p.11)

起業費用について、起業家では「50万円未満」の割合が30.2%と最も高く、「費用はかからなかった」(25.1%)がそれに続く(図-20)。パートタイム起業家では「費用はかからなかった」が42.9%と最も多く、次いで「50万円未満」が39.5%を占めた。起業費用に占める自己資金の割合が「100%(自己資金だけで起業)」である割合は、起業家で75.2%、パートタイム起業家で70.4%と、ともに7割を超える(図-21)。

5 起業に踏み切れない大きな理由は自己資金の不足 (pp.20-21)

起業関心層がまだ起業していない理由をみると、「自己資金が不足している」とする割合が46.8%と最も高い。「ビジネスのアイデアが思いつかない」(35.7%)、「失敗したときのリスクが大きい」(34.4%)がそれに続く(図-41)。起業に失敗したときのリスクの内容を尋ねると、「事業に投下した資金を失うこと」が76.3%と最も多く、「安定した収入を失うこと」(72.4%)、「借金や個人保証を抱えること」(68.2%)と続く(図-42)。起業費用や収入、借入といった資金面の問題をリスクとして考えている割合が相対的に高いようだ。

6 起業家とパートタイム起業家の満足度は相対的に高い (p.23)

四つの類型別に仕事のやりがいの満足度をみると、「かなり満足」と「やや満足」を合わせた割合は起業家(56.4%)とパートタイム起業家(49.2%)で相対的に高い(図-45)。総合的な満足度をみると、起業家とパートタイム起業家では「かなり満足」の割合(順に11.7%、9.7%)が起業関心層(5.8%)、起業無関心層(3.3%)よりも高い(図-47)。一方、「かなり不満」とする割合は、起業関心層が12.4%と最も高い。起業家やパートタイム起業家は相対的に満足度が高く、起業関心層は低いといえる。

<参 考> ウェート値の設定について

詳細調査における起業家、パートタイム起業家、起業関心層、起業無関心層の性別・年齢別構成比は、実際の人口構成を反映している事前調査（A群）と比べて偏りが生じている。そこで、詳細調査の集計に当たっては、事前調査（A群）の性別・年齢別構成比に近似させるために、ウェート値を設定した。その算出方法は次のとおりである。

①事前調査（A群）の回収数

(単位：人)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	21	10	191	166	684	426	983	1,365
30歳代	35	13	107	98	620	392	962	1,376
40歳代	44	13	93	88	618	426	1,290	1,875
50歳代	16	6	53	57	351	251	1,223	1,644
60歳代	16	5	84	38	164	136	1,326	1,910

②詳細調査の回収数

(単位：人)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	15	16	50	65	57	31	25	42
30歳代	83	32	108	102	61	47	31	41
40歳代	158	41	136	102	105	41	68	54
50歳代	125	15	121	49	92	26	98	52
60歳代	70	5	149	24	38	8	63	41

③ウェート (①÷②)

	起業家		パートタイム起業家		起業関心層		起業無関心層	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～29歳	1.400	0.625	3.820	2.554	12.000	13.742	39.320	32.500
30歳代	0.422	0.406	0.991	0.961	10.164	8.340	31.032	33.561
40歳代	0.278	0.317	0.684	0.863	5.886	10.390	18.971	34.722
50歳代	0.128	0.400	0.438	1.163	3.815	9.654	12.480	31.615
60歳代	0.229	1.000	0.564	1.583	4.316	17.000	21.048	46.585